

第2次和気町総合計画（後期）基本計画（案）に関する パブリックコメント 実施結果

1 結果概要

- (1) 意見募集期間 : 令和7年12月5日(金)から令和8年1月15日(木)
- (2) 意見提出者数 : 2名
- (3) 意見数 : 14件

2 提出された意見及び意見に対する町の考え方

(趣旨を損なわない範囲で意見を要約させていただきました。)

NO.	頁・該当箇所	ご意見	対応
1	P 28 1.人口の動向 (1)総人口の推移・推計 文面の表現について	令和32(2050)年は8,338人まで減少すると見込まれており、平成27(2015)年比で、約58%の減少率となります。と記載していますが、 14,412人⇒8,338人 = 8,338/14,412人 = 58% 100-58 = 42 減少率で言えば、42%です。 ……見込まれており、平成7(2015)年と比較すると約58%となります。が適切な表現ではないでしょうか。	ご指摘の通り、減少率は42.0%のため、文章を以下の通り変更いたします。 変更：平成27(2015)年と比較すると、約58%となります。
2	P 29 2.財政の動向 (2)財政力指数 文面の表現について	一方で、岡山県平均は0.42、全国平均は0.50と、いずれも本町を上回っており、財政基盤は県・全国水準と比べて相対的に脆弱であるといえます。と記載していますが、 ……全国平均は0.50であり本町は0.30～0.32で推移しており本町の財政基盤は県・全国水準を下回っており相対的に脆弱であるといえます。が適切な表現ではないでしょうか。	文章を以下の通り変更いたします。 変更：岡山県平均は0.42、全国平均は0.50であるのに対し、本町は0.30～0.34で推移しています。このことから本町の財政基盤は県・全国水準を下回っており、相対的に脆弱であるといえます。 ※0.34は最新データが出ました
3	P 30 3.将来人口に影響を与える要因の分析 (2)合計特殊出生率の推移 文面の表現について	(1)自然増減では出生数、死亡数として令和6(2024)年の数値が出ていますが、 (2)合計特殊出生率の推移では令和5(2023)年までしか合計特殊出生率が出されていません。以前の資料(別途)では、出生数対人口比率では、和気町は岡山県最低の数値でした。 出生数に関しては、46、44、38、40で推移しており減少していますが、合計特殊出生率では令和5(2023)年には微増という表現は適切といえるのでしょうか？	合計特殊出生率は県が公表しているデータのため、令和6年度は現在、公表されておりません。また、他市町との比較できる指標として合計特殊出生率を採用しています。 合計特殊出生率は、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、分母である女性の数の変動にも影響されるため、出生数とは同調しないことがあります。
4	P 31 3.将来人口に影響を与える要因の分析 (4)子供の希望・結婚に対する意識 帯グラフの備考表示など	<input type="checkbox"/> 1人 <input type="checkbox"/> 2人・・・ <input type="checkbox"/> 5人 色、斜線等 識別されていますが、非常に見にくいです。 大きくとる、またはグラフ内に数値を入れるなど解りやすい表現に変更願います。	グラフ(エクセル)の仕様のため、限界はありますが、大きく表示いたします。

5	<p>P 32</p> <p>3.将来人口に影響を与える要因の分析 (6)通勤・通学先の状況 文面の表現について</p>	<p>通学において、流入が205人、流出は478人 すなわち、△273人(学年約100人)の 状態が大きな問題といえます。 通学時の流出が過多である事を記載するべきではないでしょうか？ 通学による流出は、進学・就職による流出につながり人口減少の要因となりま す。具体的対策(後述可)が必要ではないでしょうか？</p>	<p>通学における流出は、町内には大学がないこと、高校も1校で あることが原因と考えられます。 また、岡山市内や備前市への流出が多いことは、住まいを和気 に持ち町外に通勤されている方が多いことを示しています。 ここでは、状況の説明を行っており、具体的な人口減少対策等 の施策等に関しては、P 3 8以降の後期基本計画にて示すようにし ております。 通学に関する事項については、「また、通学者においても町外へ の流出が多くなっています。」を追記いたします。</p>
6	<p>P 35</p> <p>2.人口の将来展望 (1)将来の人口展望 シミュレーション結果のグラフ データの数値について</p>	<p>国勢調査人口 2035年=10,893人 2040年=9,993人 でグラフ化されています。 しかし、別資料「和気町DX実施計画」(令和7年12月策定)P 8では、 2035年=10,895人 2040年=9,991人で作成されています。 数値は統一するべきだと思います。</p>	<p>端数処理の関係と考えられます。先出のDX実施計画(2035年= 10,895人 2040年=9,991人)と統一します。</p>
7	<p>P 98</p> <p>政策01.だれもが住みたいと思う魅力のあるまちを創 る 施策①安心して暮らせる居住環境の形成 まちづくり指標：社会動態数</p>	<p>社会動態数▲35人(2024年)から5年後2030年に50人を目標としていま すが、記載されている施策で可能でしょうか？ 転入者への提供などとなってはいますが、まずは呼び込む為の具体的施策が必要 だと思います。</p>	<p>本指標の掲載部分では、住宅等の受入体制を整備することにより 移住者及び若者の定住促進を目指しています。 また、基本目標7においてファンクラブ事業などにより和気 を知ってもらい、来訪機会の創出に関する事業を行っています。ま た、町民の地元愛(シビックプラウド)を醸成する事業などにより 若者を中心とした世代の人口構造改善を図っていきます。 ご指摘のとおり、指標として関連がより高い基本目標7へ移設し ます。 合わせて、新しいデータが出ましたので、社会動態数▲35人(見 込み)から▲17人(実績)に数値を修正します。</p>
8	<p>P 104</p> <p>政策02.安全で快適な生活基盤を整える 施策②適正で合理的な土地利用の推進 まちづくり指標：和気駅1日平均乗車人員数</p>	<p>和気駅1日平均乗車人員数について 現状1,125人(2023年)目標値1,500人(2030年)となっていますが、通常、鉄道事 業においては、乗降客数を記しています。 従来は、乗降客数3,000人を超える場合は、エレベーターなどの設置の推進 につながるという議論となっていたはず。その為、乗降客数を記す事が良いので はないでしょうか？</p>	<p>バリアフリー基本構想(2024年)が和気駅のエレベーター設置の 根拠になっております。また、その基本構想において岡山県統計 年報を元にした乗車人員数を示していることから、増減の比較を 容易にするため乗降者数ではなく乗車人員数としています。</p>
9	<p>P 106</p> <p>政策02.安全で快適な生活基盤を整える 施策③安全で安定した上下水道サービスの提供 まちづくり指標：下水道有収率</p>	<p>・下水道有収率 61.2%(現状：2025年)目標値80.0%(2030年) 約20%も上げる目標となっていますが(下水への設備化)、具体的施策がありませ んが5カ年で可能でしょうか？ ・老朽化した水道施設の更新と耐震化に取り組んでいきます。となっています が、何箇所を念頭にしていますか？ 予算等がどのようになっているのかが無い 状態で可能なののでしょうか？ 具体的数値が必要と思われるます。</p>	<p>・下水道有収率が上がらない一因として不明水の流入があるた め、管路調査等を実施し不明水を減少させ、有収率の向上に努め ます。 ・老朽化施設の更新や耐震化について、今後の計画基礎となる 水道ビジョンの見直しも含め、現在の配水池や水道管渠の状況を 鑑み、優先順位を定め、順次更新を行ってまいります。</p>

10	<p>P111</p> <p>政策01.個性を生かし、能力を発揮して生涯活躍できる環境を創る</p> <p>施策①農林業の振興（成長産業化支援、次世代の担い手確保）</p> <p>まちづくり指標：耕作放棄地面積</p>	<p>耕作放棄地面積 63ha(現状値：2024年) 目標値 51ha(2030年)となっていますが、可能数値の根拠はありますか？</p> <p>農業従事者の(避けられない)高齢化、夏季の猛暑、資材費の高騰等もあり、耕作放棄が進むものと考えて事が順当で、せいぜい横ばいではないでしょうか。</p> <p>また、団塊の世代の多くが80歳を超えてくると、なお一層離農が進みます。しかし、その休耕を受ける農業従事者はほとんどいないのが現状ではないでしょうか？</p> <p>12haも耕作が増える(=放棄地が減る)事はどう考えても無理がありませんか？</p> <p>せいぜい、横ばい(現状維持か60ha)が妥当だと思います。</p> <p>可能ではない目標は掲げるべきではないと考えます。</p>	<p>目標値51haについて「達成困難」との意見をいただきました。町としては、前期計画の目標（45ha）等を勘案し、高い目標であるが少しでも近づけたいと目標値を設定しておりました。しかしながら、ご指摘のとおり、高齢化や担い手である新規就農者の不足、営農環境の悪化（猛暑・資材高騰等）等の状況を踏まえ、目標値を現状値よりやや改善した60haに見直します。対策として、新規就農者への技術習得・農地確保支援、農業委員と連携した農地流動化の促進、鳥獣害対策の拡充や高付加価値を目指すオーガニックの取り組みなどを推進することで農業者が安心して取り組める環境を整え、耕作放棄地の解消に向けた努力を続けてまいります。</p>
11	<p>P126</p> <p>政策02.人口構成のバランスを改善し、持続可能な活気あふれるまちを創る</p> <p>施策①若者世代の移住・定住促進、タウンプロモーションの推進</p> <p>まちづくり指標：和気町の若年人口（20～39歳）</p>	<p>和気町の若年人口(20～39歳) 1,970人(現状値：2024年)</p> <p>目標値 2,400人(2030年)と430人の増を目標としています。</p> <p>平均して毎年約85人の増加です。20歳人口の大多数(ほとんどが)和気町に残る想定となっていることにはなりますが、可能でしょうか？</p> <p>別途統計(東洋経済社、総務省統計より)によると、和気町の20歳代人口は1,029人、転出者数は85人 転出超過率は8.26%であり転出超過率が高い自治体として岡山県内で2位、全国的にも89位となっています。</p> <p>目標値として、高くても2,000人にするべきではないでしょうか。</p>	<p>ご指摘の通り、目標値2,400人は過大な目標となっています。目標値を2,000人とするとともに、総人口に対する割合を追加し、次のように改めます。</p> <p>現状値：1,970人（15.6%） 目標値：2,000人（16.7%）</p>
12	<p>全体</p>	<p>政策の立案過程は、ワークショップ、アンケート、協議体などで実効性の高い課題抽出→解決策の具体化を多面的に実施しているので、基本計画の立案手法は、妥当と感じます。</p>	<p>計画の推進にあたっては、有識者会議やワークショップの開催など適時進捗を確認しながら推進してまいります。</p>
13	<p>全体</p>	<p>具体化した総合的な施策群に対するKPI指標なども設定されており、モニタリング可能な点もマネジメント可能な基本計画としての妥当性は高いと考えます。</p>	<p>他データと比較できることを念頭にKPIの設定を行っております。また、資料編にて出典・計算式等の掲載を行っております。</p>
14	<p>全体</p>	<p>立案した施策群への投資計画が記載されていないので、どれくらい費用が必要で、施策群による効果が金額換算でどれくらいあるかが分かりません。このため、基本計画の経済的価値が全く評価できない状態です。ということは、この基本計画で今後の和気町の経済的発展が望めるか？の説明責任は果たせていません。</p> <p>特に投資資金調達計画における県や国の補助金活用、官民連携による資金調達、広域市町村連携によるスケールメリット活用などの施策の具体化が必要と考えます。</p>	<p>ご指摘のとおり、施策の実施にあたっては、必要な事業費や財源の確保、事業効果の検証が重要であると認識しております。</p> <p>一方で、本基本計画は、和気町が中長期的に目指すまちづくりの方向性や施策の基本的な考え方を示すことを目的として策定しており、個別事業ごとの事業費や投資効果を金額換算して記載する計画とはしていません。</p> <p>具体的な事業内容、予算規模、財源につきましては、各年度の事務事業計画や予算編成の過程において、各担当課が国・県補助金の活用、官民連携、広域連携の可能性等を含めて検討し、実効性を確保しながら事業の着実な推進に努めてまいります。</p>